



8月に入りました

気がつけば、8月（葉月）に入りました。楽しみにしていた夏休みも始まってみれば忙しさを感じていると思います。長く激しかった梅雨が終わり、本格的な夏に入りました。部活動に入っている子供たちは、毎日、肌を刺すような日差しを受けながら頑張っていると思います。新チームになり、後輩を引っ張り、自ら成長していかなければなりません。立場が変わった事でいろいろと気づく事も多いと思います。

また、夏休みだからといって勉強をおろそかにできません。各教科で宿題も出ていますので、計画を立ててしっかりと取り組みましょう！しかし、宿題が終わったら、勉強はしなくてもいい！というわけではありません。自分が苦手としている教科、分野の復習をしっかりとしましょう！



戦争について考えてください

1941年12月8日、日本は空母6隻を中心とする海軍機動部隊を出撃させ、ハワイのオアフ島の真珠湾を奇襲してアメリカ太平洋艦隊に大損害を与え、太平洋戦争に突入した。同日、アメリカ、イギリスなどの連合国が日本に宣戦布告すると、12月11日にはドイツ、イタリアがアメリカに宣戦布告し、戦争はヨーロッパを越えて世界大戦に発展した。

1945年、日本軍はフィリピン戦で初めてもちいた神風攻撃や沖縄島民を総動員しての烈しい抵抗を続けたが、6月23日に沖縄全島で日本軍の組織的抵抗は終結した。マリアナ諸島と硫黄島の陥落は、アメリカ空軍による日本本土への本格的空襲をまねいた。グアム、サイパンを基地とするアメリカ軍のB-29重爆撃機は、硫黄島基地の戦闘機に護衛されて日本の諸都市、軍需工場などを破壊し、南方資源地帯との連絡を絶たれた日本の敗北は時間の問題となった。

1945年8月6日、9日の広島および長崎への原爆投下と8月8日のソ連の対日参戦によって命運は尽きた。8月14日、日本は正式に降伏を決定(翌15日発表)し、9月2日に東京湾に停泊するアメリカ戦艦ミズーリ号艦上において連合国代表マッカーサーとの間で降伏文書に調印した。

日本の戦死戦病死者数 155万人…**一般国民の死者数 30万人**…

「8月15日」の意味は、ほんの10年ほど前に比べても、格段に小さくなっているように思えます。

それが故、若者や子供たちが殺伐としている、というのは言い過ぎでしょうが、命の重さがどんどん軽くなり、ゲーム感覚でクラスメートをいじめたり、むしゃくしゃしたからといって他人の命を殺めたりする子供が、ここ数年激増しているのは、紛れもない事実です。毎日のように、殺人のニュースがながれ、心が痛みます…。



子供たちは「戦争を知らない世代」です。かつての、私を含めた「戦争を知らない子供たち」が、今はそのまま「戦争を知らない大人たち」になっています。その大人たちが戦争について子供たちに残酷さ、悲惨さを教え、語る機会があります。実際に経験をしていないので、難しい面もありますが、確実に伝えないといけない事は多いです。

今現在、戦争をリアルな体験として語れる人は、どんどん減ってきています。実際には、まだまだ沢山、戦争の生き証人はいますが、それを語る場が少なくなってきました。受け手がリアリティを持って聞くことが出来なくなってきました。

「戦争を知らない子供たち」が再び「戦争を知る子供たち」にならないよう、弱い者が切り捨てられ続ける社会にならないよう、人の命の重さがまっとうに認識される社会になるよう、将来の日本に望みたいです。

そして、いまなお、地球上のどこかで、戦争が続いている地域があつて、やはり悲しみの血の涙を流している多くの人たちがいることも、決して忘れてはならないと思います…。

終戦記念日に向けて、新聞や報道でさまざまな特集等が設けられます。家庭でも話をする機会を設けていただけたらと思います。



忘れてならぬ 戦時の体験

主婦

B29の不気味な爆音が忘れられない。小学校は軍隊に占拠され、うごん工場が教室だった。米英撃滅、戦意高揚のためルーズベルトをしばる意味で縄をなつて持参し、長さを測る競技もあった。刈り入れた麦を背負つて帰る途中、米の偵察機がすぐ目の前を低空でやってくる。機銃掃射を受けたら死ぬところだった。のどが渇き、声も出さず大変な恐怖を味わった。今の子供たちにこのような体験をさせてはならない。学校でも防空壕生活、家でも警戒警報が鳴ると座布団で作ったずきんと母の着物で縫った毛ペンでの防空壕生活だった。

小学生の私たちは戦争の犠牲者でもあった。世界あちこちで今も紛争やテロが絶えない。戦争体験は一生忘れることほどきない。この体験を将来を背負って生きる子供たちに伝えていきたい。そして、一日も早く世界の平和が訪れることを祈りたい。(始良町)

南日本新聞
「ひろば」 平和への思い より

今こそしっかりとした躰が必要です

中学生の夏休みといったら、何もかも中途半端で終わってしまい、生活のリズムが乱れ結果として…。ともすればそんな状況に陥りかねません。

夏休みは、学校での生活を家庭にかえすわけですから保護者の方々のしっかりとした躰が大変重要になってきます。子どもは生活のリズムに変化が生じると何らかのサイン（服装、態度、言葉遣い、表情の乱れなど）を送ってきます。これらのサインにいち早く気づき、時には厳しく時には優しい言葉をかけてください。

第2次反抗期を迎えたこの時期、言う事を聞かないときもあるでしょう。それでも言い続けることが大切ですいつまでも見つめてあげることが大切なのです。

どうか大人の、保護者の責任としての躰をお願いします。